

高等学校事情

第10回 関西エリア

今号では関西エリアの奈良県と兵庫県動きをレポートする。奈良県は3つの世界遺産を有する利点を生かし、2013年度から文化や伝統への理解を深める新しい学習をすべての県立高校に導入する予定。郷土を教材とする特色づくりに取り組んでいる。大学進学率が全国上位の兵庫県は、理数系教育の支援策を積極的に打ち出すことによって県全体での学力向上をめざしている。

奈良県

奈良県のアウトライン

理工系は1学部のみで低迷する地元進学率

文部科学省「2012年度学校基本調査速報」によると、奈良県の18歳人口は1万3935人で全国第29位。高校数は国立1校、公立37校、私立18校の合計56校(特別支援学校を除く)、生徒数は公立約2万7230人、私立約1万450人(定時制を除く)の合計約3万7680人。全体の約3割を私立高校の生徒が占めている。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012
18歳人口(人)	14,426	14,497	14,179	14,190	13,935
大学等進学率(%)	57.0	58.1	59.0	58.4	58.7
地元大学進学率(%)	14.3	14.6	14.3	15.1	15.4
地元短大進学率(%)	24.3	29.9	31.6	36.8	34.7

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
 ※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

大学等進学率は58.7%で全国第6位。長年全国トップ10圏内で推移しているが、地元大学進学率は15.4%と低く、全国第44位である(図表1)。

県内の大学数は、国立2校、公立2校、私立6校と少なく、学部の種類も少ない。特に理工系は奈良女子大学の理学部のみで、理工系志望の男子生徒は、必然的に県外の大学をめざすことになる。

また、大学数の多い大阪や京都への交通の便が良く、通学のしやすさも県外進学に拍車をかけているようだ。

高校の現状① 改革の取り組み

地域の特色を生かし 新たな学習を導入

奈良県教育委員会は、2012年度から「国際社会で通用する外国語能力育成事業」に取り組んでいる。文部科学

省の施策「英語力を強化する指導改善の取組」の拠点校として桜井高校と高取国際高校が指定されたことをきっかけに、新たに畝傍、法隆寺国際など県立高校6校を、拠点校を補佐する「協力校」に指定。計8校を中心に国際社会で通用する外国語能力の育成を図っている。

英語で行うことを基本とする授業の導入や、新たな外国語のカリキュラム開発のほか、県の国際観光課の協力の下、海外の高校生の短期的な受け入れなども行い、国際交流の活性化と語学力量向上に取り組んでいる。

また、外国語教員を対象とする指導研修会が、事業の開始から5か月間で10回開催されるなど、指導力向上にも力を入れている。

2013年度からは、県独自の学習「奈良TIME」をすべての県立高校に導入する予定だ。国際社会の中で新しい文化の創造と発展に貢献する人材を育てることを目的とし、奈良県の伝統や文化に対する関心や理解を深める。総合的な学習の時間だけでなく、国語、地理歴史、理科などすべての教科で実施できるよう、柔軟性の高いプログラムを例として示している(図表2)。

県教委によれば、「以前から『郷土についての学習は必要』という意見が生徒から出ていた。新たな探究型学習として導入し、学校で良い実践が生ま

れば、プログラムの例に追加していく予定」だという。

高校の現状② 高校入試改正

受験機会の減少で 新たな特色づくりも

奈良県では、2012年度に県立高校の入試制度が改正された。2006年度から全県立高校で特色選抜と一般選抜の両方が採用されていたが、特色選抜を「専門学科および総合学科、普通科の特色コースのみで実施」に変更した。この改正により、奈良や畝傍、郡山などの普通科11校の入試は一般選抜のみとなった。

県教委は制度改正について「特色の出しにくい普通科では、高校の特色に沿った力を測るという特色選抜の趣旨に合わないという意見もあった。特色選抜で不合格になった生徒が、一般選抜で合格するケースも多かった」と説明。高校の教員やPTA等からなる検証改善委員会の提言もふまえて、今回の改正となったという。

競争率の高い普通科が抜けたことによって、特色選抜全体の志願倍率が低下すると予測されていた。しかし、2011年度の卒業生の就職率が100%になった王寺工業高校が注目を集めるなど、専門学科の人気の上がり、志願倍率は上昇した。

一方、一般選抜のみとなった普通科の中には、受験機会が減らないよう、2013年度から特色あるコースを新設し、再度、特色選抜が実施できるようにする高校が3校あるという。県教委は、「地域からの要望もあり、コースを新設するのは、地域と連携しながら特色を生かした新たな取り組みをする高校だ。このような取り組みは高校の

図表2 「奈良TIME」指導事例(抜粋)

プログラム例	国語	地理歴史	理科	芸術	外国語	家庭	農業	工業	商業
芥川龍之介「竜」:猿沢池	◎	○		○美					
鷗外の門	◎	○							
『古事記』『日本書紀』にみられる地名・ことばの由来	◎	○				○	○		
大和の仏像		◎		○美			○		
平城京と平城宮跡		◎						○	○
斑鳩の地と法隆寺地域の仏教建造物		◎						○	○
奈良県の古墳と古墳文化		◎		○美					
吉野林業と土倉庄三郎	○	◎					○		
古代の薬を調べよう	○	○	◎					○薬	
奈良の墨			◎	○書					○
英語で紙芝居(東大寺)	○	○			◎				
東大寺修二会の衣と食	○	○				◎			
奈良の歴史的街並み		○						◎	○
古建築のスケッチ		○		○美				◎	
奈良県の工業製品を考える			○	○美		○	○	◎	○

◎は主たる関連教科、○はそれ以外に関連すると考えられる教科名。
 ※芸術科の「美」は「美術・工芸」、「書」は「書道」、工業科の「薬」は「薬品科学」を指す。

活性化にもつながる」としている。

進路指導の特徴

通常授業以外の時間も 受験対策に活用

奈良県の公立高校は文武両道を教育方針の一つとしている。郡山高校では、50分×6時限授業と7時限授業を併用し、授業と部活動の時間を確保している。2008年度からは文系・理系の2類型とし、生徒の進路希望などに合わせた幅広い選択科目を設置。大学進学希望者を含めたすべての生徒を対象に、将来の仕事を見据えた進路指導をしている。

また、定期考査後の学力補充講座、全学年対象の夏期講習、早朝・土曜講習などの実施で、きめ細かい指導体制を確立している。

畝傍高校では、65分×5時限授業や二期制を導入して、授業時間の確保と授業内容の充実を図っている。3年

次に文I・文II・理I・理IIコースに分け、各コースでは進路目標に合わせた特別カリキュラムを取り入れている。

また、基礎学力の定着を図る補充講習を1年次から実施するほか、夏期講習や、50分×週3日の放課後講習等を年間を通して適宜開講し、生徒がめざす進路の達成を後押ししている。

私立で特徴的な指導を行っているのが、県内2校目の中等教育学校である聖心学園中等教育学校だ。年間270日の授業日数を確保して、主要5教科の先取り学習を実施。予復習のための「居残り学習」を設定するなど、手厚い指導を行っている。

中等4年次からは、文・理クラスに分かれて大学受験を意識した学習に取り組む。通常の授業のほかに、数学の成績上位者を対象にした最難関国立大学の入試問題特別講座や、中等5年次の英語・数学・国語3教科の成績上位者が対象のセレクション講座を開講。大学受験に向け、万全の早期対策を実施している。

兵庫県



高い大学進学率 通学圏内に多数の大学

文部科学省「2012年度学校基本調査速報」によると、兵庫県の18歳人口は5万2375人で全国第7位。高校数は公立161校、私立52校の合計213校（特別支援学校を除く）、生徒数は公立約10万1130人、私立約3万6240人（定時制を除く）の合計約13万7400人である。

大学等進学率は60.0%で全国第4位。関西では全国第1位の京都府に次ぐ。県内に数多く大学が存在するが、地元大学進学率は40%台後半で推移しており、全国平均の43.2%と比較してもそれほど高くない。西宮市や神戸市を含む県東部・県中部は大阪や京都が自宅通学圏内であること、人気の高い私立大学が近県に多いことが理由に挙げられる。姫路市をはじめとする県西部の播磨地区は、「進学する場合は地元を離れる」という意識が一部で

あり、県内のほかのエリアに比べ、より県外志向が強い傾向にある。

高校の現状① 改革の取り組み

理数科教育の支援で 特色を強化

兵庫県教育委員会は、県立高校における教育活動の特色づくりの一環として、「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」に取り組んでいる。高校生にとって魅力ある教育を行うための各高校の創意工夫を支援する事業だ。過疎化が進む郡部の小規模校等を対象とする「中高連携・地域連携」、専門学科の特色ある学びをさらに推進する「スペシャリスト育成」、科学技術・学術分野で活躍する人材育成をめざす「理数教育等学力向上」、学校独自の教材開発や授業力の向上を図る「特色づくり実践」の4テーマで支援する。現在は105校が指定され、学校独自の取り組みに励んでいる（図表2）。1校が複数のテーマを実践することも可能で、指定校は年々増加している。

計画では、この事業は2012年度までだが、現在、評価・検証委員会が事業評価を行っている。これまでの成果や実績をふまえ、さらなる支援方策について検討中だ。

2012～2014年度に実施する「高校学力向上推進プロジェクト」では、全

県立高校の中から公募に応じた30校を研究校に指定した。授業改善や学習習慣の定着に各校が工夫を凝らして学力向上をめざすとともに、研究成果を全県に普及する。「家庭学習時間を学年プラス2時間（社）」、「学習到達度テスト80点以上の生徒を8割以上に（東播磨）」など、具体的な数値目標を高校ごとに設定して取り組んでいる。

理数教育に特化した学力向上施策としては、2012年度にスタートした「理数教育アクションプラン事業」がある。「金環日食・金星食の観測（柏原）」「大学教員の指導による有機合成実験（姫路工業）」など、観察・実験推進モデル校を年間10校指定。研究成果をほかの高校にも広めることを目的としている。

同事業の1つ、「兵庫“咲いてく”（サイエンス&テクノロジー）”事業」は、兵庫県教育委員会と、神戸、三田祥雲館、明石北など県内8校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校が推進委員会を組織し、理数系科目のカリキュラムや指導法などの研究成果をほかの高校へ広めながら、学校間の共同研究や情報交換を行う。

兵庫県では2013年の「第2回科学の甲子園」全国大会の開催が決定しており、今まさに理数教育の充実期にある。県教委は「進学校だけの実績を伸ばすのではなく、生徒が好きなことに取り組める環境を整え、全県での学力向上をめざす」としている。

高校の現状② 再編整備

学区再編に合わせて 入試制度を全県で統一

県教委は、2009～2013年度施策の「県立高等学校教育改革第二次実施計

画」に基づき、高校の特色づくりの一層の推進を目的とした入学者選抜制度の改正に着手している。2002年度までは単独選抜、総合選抜のどちらかを学区単位で採用していたが、2003年度入試からこれらを段階的に廃止。特色選抜と複数志願選抜の2種類の入試制度を導入した。特色選抜は全学区で、複数志願選抜は12学区で実施されている。

特色選抜は、全日制普通科のうち、教育課程や授業に特色のある学校づくりが進んでいる高校が実施する。県内には、生命科学類型、地域創造類型、教育総合類型など、学科やコースよりも緩やかな「類型」という教育課程を設置する公立高校が多いが、特色選抜はそれら特色ある教育内容に応じて、受験者の個性や能力を、面接、小論文、実技などにより多面的に評価する方式だ。募集人員の15%を限度とし、2012年度は56校が行った。

複数志願選抜では第2志望校まで選べる。志願者は第1志望校に提出する願書に、第2志望校がある場合はその高校名と、さらにこれら以外の公立高校に入学する意思があるかどうかを記入することができる。第1志望を優先するため、第1志望校の可否のみ、試験の得点に一定の加算をして判定される。出願時に希望していれば、第1、第2志望とも不合格の場合でも、成績次第でそれ以外の公立高校に合格できる。

2015年度には学区の再編を行い、現在の16学区を5学区に統合する予定だ。これを機に複数志願選抜を全県で導入する。再編後は、学区内の高校数が現在の2～5倍になり、進学先の選択肢が増える。また、第1志望加算点の見直しを行い、学びたい高校へのチャレンジの後押しをより強化する計画だ。

図表2 2012年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業の取り組み例（抜粋）

テーマ	高校名	主要事業の内容
中高連携・地域連携	宝塚西	英語教育小中高連携検討会を発足させる ・小中高の英語、外国語の授業を互いに参観 ・専門家、小中高教員による小学校の教案作成 ・高校での公開授業 ・大学教員を招いて授業のあり方についてのシンポジウムを開催 ・高校生による小学校の英語授業補助 ・英語教育における小中高大連携を模索する教材作成
スペシャリスト育成	舞子	全国唯一の防災専門学科として、防災教育の可能性を提起する ・専門家と連携し、災害時の心のケアプログラムの原案を策定 ・地域住民に向け、地域防災セミナーの実施 ・「小・中・高校生防災教育交流大会」の実施 （地域の防災訓練など各種イベントに参加、地域との連携を図る）
理数教育等学力向上	兵庫	・大学、企業、国連機関等と連携し、自然科学や地域の課題等に関する研究に取り組む ・校内報告会の実施
特色づくり実践	尼崎	・定期的に授業研究会を行い、中学校との授業研究交流を行う ・インターンシップの積極的な実施 ・「インターンシップ」の名称で世代を超えた触れ合いの場を主催、PTAや同窓会と芸術鑑賞会を共催、地域住民にも参加を呼びかける ・高大連携協定大学から教員を学力向上アドバイザーとして招へいし、授業改善に向けた研修、講師の招へいを行う

進路指導の特徴

私立に屈指の進学校 特色を生かす公立高校

兵庫県には灘や甲陽学院、白陵など、全国屈指の進学実績を挙げている私立高校が多い。2012年度入試では、3校合わせて東京大学に147人、京都大学に124人が合格した。

中高一貫校の須磨学園も、生徒に「なりたい自分」を掲げさせ、積極的な指導を行っている私立高校のひとつである。60分授業の中で、理解度を測る10分の確認テストを毎回実施し、「その日のうちの完全理解」を徹底している。

学期末や夏季休業中には全員参加の特別授業を設けて、定期考査や模試、確認テストなどの結果に基づく特別時間割を編成する。2012年度は京都大

学10人、大阪大学20人、医学部医学科18人など、国公立大学に179人が合格した。

公立高校では特色ある取り組みを行っている高校が多い。小野高校は「科学総合コース」を設置するなど、人文科学、社会科学、自然科学それぞれの分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

3年間を通じて開設する文理共通の独自科目「探究」では、情報収集能力とプレゼンテーション能力を育成。ミニ論文の作成やグループ別のフィールドワーク、文献研究などを行い、地域住民も参加可能な課題研究中間発表会を実施している。

進学指導にも力を入れ、2年次から文系・理系の進路に応じた少人数授業で手厚い指導を行う。「国際理解」「応用数学」「時事英語」といった独自科目を設定し、理解度を深め、成績向上につなげている。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012
18歳人口(人)	54,990	54,046	53,886	53,481	52,375
大学等進学率(%)	59.3	60.2	60.7	60.1	60.0
地元大学進学率(%)	46.1	47.5	46.6	46.1	46.1
地元短大進学率(%)	73.8	74.1	74.8	76.8	78.1

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。